

令和4年度 学校評価 学校関係者評価書

学校名	三木市立 吉川小学校
-----	------------

1 学校教育目標

こころ豊かに たくましく 学びを深めあえる子の育成 ～ ふるさとを愛し 夢を育む学校づくり ～

2 本年度の重点目標

- (1) 新型コロナウイルス感染症対策と豊かな学びを継続する。
- (2) 心の通い合う学校づくりを通して、心豊かな人間性の育成に努める。
- (3) 健やかな心と体を育て、たくましく生き抜く力を身に付けさせる。
- (4) 認め合い、支え合う特別支援教育の推進
- (5) キャリア教育の推進
- (6) 組織力を高め教職員の勤務の適正化に向けた取組を推進し教育活動のさらなる充実を図る。

3 自己評価結果

(アンケート結果による達成基準 : 4 よくあてはまる 3 大体あてはまる 2 あまりあてはまらない 1 あてはまらない)
 【 A : 達成している (3.5以上) B : 概ね達成している (3.0以上3.5未満) C : あまり達成していない(2.5以上3.0未満) D : 達成していない (2.5未満) 】

4 自己評価方法の適切さについての学校関係者評価

- ・評価項目をしぼり、アンケートの分析や考察によって達成状況を客観的に判断する評価方法は定着しつつあり適正である。
- ・「改善策」の欄では、課題実現への取組み、成果を得た重点ポイントなどがコンパクトに記載され分かりやすい。
- ・次年度に向け成果を更に高める「策」、成果未達となった点の具体的な「改善策、手立て」などの記載があれば、次に繋がり、さらに良い。
- ・評価コメントで使う言葉は、できるだけ専門用語を避け、平易な言葉で部外者が読んでも分かるような配慮をお願いしたい。

5 評価の観点ごとの学校関係者評価

評価項目	今年度の最重点評価項目 (1つまたは2つ)	取組 (達成) の状況		評価	総合評価	改善の方策
		対象者	評価指標・評価方法等 (質問紙調査を実施)			
学習指導	○ICTを活用するなど、個別最適な学びに取り組み、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を目指す ○自主学習を習慣化し、自ら学習に取り組もうとする力を育む	児童	・授業中、進んで発言したり、話し合いをしたりするなど、主体的に学習に取り組んでいるか。 ・自主学習に進んで取り組んでいるか。	B	B	・授業改善を行う中で、発言する場面を作ったり、話し合いをしたりする場面を学年に応じて工夫してきた。また、主体的、対話的で深い学びを実現するための授業改善にも取り組んできた。 ・キュビナやコラボノートなどのICTを活用し、個別最適な学びに取り組めるように授業に取り入れたり、研修に取り組んだりした。 ・自主学習コンテストを開催し、みんなの取り組んでいるノートなどを見たり、宿題に自主学習を取り入れたりしたが、全体として自主学習に取り組もうとする意欲を育てるための改善が必要である。
		教職員	・ICTを活用するなど、個別最適な学びに取り組めたか。 ・主体的、対話的で深い学びを実現するための授業改善ができたか。	A		
		家庭や地域との連携	・音読や自主学習など、日々の家庭学習を主体的に取り組んでいるか。 ・子どもたちは授業をわかりやすいと話しているか。	B		
道徳教育	○子どもの多様な意見を受け止めたり、お互いの意見を尊重したりする温かい授業づくり	児童	○道徳の授業の中で、道徳的課題について自分の考えを持ったり、意見の交流をしたりする事ができているか。⇒児童アンケートで80%を達成する。→85%	A	A	・道徳の授業では、個人、グループ、全体などの話し合いの場を課題や学年の実態に応じて工夫した。また、児童の意見を肯定的に受け止め、発言しやすい場づくりに取り組んできた。 ・道徳教材は研究推進委員会と協力し、読書課題の中に親子で道徳教材を読む課題を設定したが、保護者の認識と合っていなかったため、コメント欄などをつけるなど工夫が必要。 ・親子学習教材は、181人が親子で一緒に道徳教材を読んでいる。うち141名の保護者からコメントを頂いている。アンケートでの質問の仕方に工夫が必要。
		教職員	○子どもが多様な意見を言える授業づくりに取り組む事ができているか。 ○子どもの道徳的価値に関する考えや、成長を捉える事ができているか。⇒教職員アンケートで80%を達成する。100%	A		
		家庭や地域との連携	○家庭で道徳教材を読む機会を設けたり、親子で考える教材などに取り組む。⇒保護者参加率80%を達成する。アンケート67%	C		
人権教育	○人権の啓発を通じた、多様性の尊重と自尊感情の育成	児童	○自分や友達の良い行いに目を向け、自尊感情を高め合うことができたか。⇒「吉川っこ人権の小窓」放送への自主的参加が80%以上 延べ100%超	A	A	・2学期より、全校放送で普段の生活の中で見られた児童の良い所を教員から発信し続けた。12月中旬より、児童から友達や自分の良い所を見つけ、メッセージを書く活動を行ったが、1月末時点で238枚のメッセージが寄せられている。今後も続けていくが、いずれこの活動を児童主体にしていきたい。 ・今年度は、保護者と児童と一緒に聞ける人権講演会を開催した事で、親子で人権について考える機会を持つ事ができた。親子人権学習参観の在り方については、工夫して、更に充実したものにしていきたい。
		教職員	○子どもの良い所を見つけ、それを子ども達に伝える事ができたか。⇒「吉川っこ人権の小窓」放送の実施 ○同和教育、人権教育などの研修を受講し、人権意識を高める。⇒年度内に2回以上受講する。	A		
		家庭や地域との連携	○親子人権学習、親子人権週間、人権講演会に参加したか。⇒保護者出席率80%以上 →85%	A		
特別支援教育	○一人一人の多様な教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実	児童	○友達一人一人の違いを大切に、互いに助け合える人間関係ができているか。⇒ 児童アンケートで90%以上を達成する。 → 約92.6 %	A	A	・定例会議はもちろん、必要に応じて会議を開き、全職員で共通理解を深めながら、支援や適切な指導について話し合うことができた。 ・児童一人一人に応じたよりよい支援を行うために、来年度は通常学級における合理的配慮についての研修の機会を持ちたい。 ・今年度は、特にスクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、学校生活支援教員、子育て支援課、療育施設と連携を取りながら教育活動を進めることができた。今後は医療機関との連携もさらに深め、専門的な意見を取り入れたい。 ・家庭や地域への啓発については、84.9%となっているが、本校の取り組みは、ホームページや学校だより等を通じて、わかりやすく発信することができていると考える。
		教職員	○定期的に全職員での児童の情報交換と適切な指導・支援方法の共通理解を図ることができたか。 ⇒ 気になる児童の様子、支援の方法等を記録に残す。 → 約100 % ○児童一人一人に応じた指導方法の充実に努めたか。 ⇒ 教職員アンケートで90%以上を達成する。 → 約100 % ○医療・福祉機関や教育センター等、児童を中心とした関係機関との連携ができているか。 ⇒教職員アンケートで90%以上を達成する。 → 約88.2 %	A		
		家庭や地域との連携	○児童、保護者、地域の方々への特別支援教育の啓発ができたか。 ⇒全学年での交流活動。保護者、地域に対して、ホームページ等で発信し特別支援教育の啓発をする。 → 約84.9 %	A		

学校自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価		
妥当である	過大評価である	過小評価である
○		
【その理由】 1.個別最適な学びと連携した自主学習の取り組みを推進するためにも自主学習コンテスト等を発展させ、改善の方策にあるように取り組む意欲を育てる事には是非取り組んで頂きたい。 2.長期の休みや普段の宿題にキュビナを取り入れることで個別に得意な分野は伸ばし、苦手な分野は繰り返し学習することができていた。これからも積極的にICTを活用した教育を進めて頂きたい。 3.今後は「学力育成三木モデル」との関連を図った取組が必要になるのではないだろうか。 4.「ICT」活用研修の中で好事例、失敗事例などを共有し、改善策作りなどの検討の場を設け、着実に成果が得られる「ICT」の有効な活用スタイルを作り上げて頂きたい。 5.保護者へ、授業の取組状況、児童の学習状況などを分かりやすく、頻度よくオープンに情報公開し理解・協力が得られるように努めて頂きたい。		
○		
【その理由】 1.道徳課題に子ども達が興味を持ち取組めるよう、教職員で色々工夫された場を作ることが成果をあげていることを評価する。 2.長期休暇中に親子で道徳教育に取り組むことができたが、親を巻き込んだ学習は、取り組み意図を保護者への確に伝え、共有化を図り、意図通りの成果が得られるよう進めて頂きたい。 3.教材を使つての道徳教育も必要だと思います。教材以外でも日々の生活の中で挨拶や返事、掃除時間を守る等個人が行うルールを大切に指導にも力をいれてほしい。 4.個人の考えを小規模のグループ内で発表してから全体に向けて発表するという段階を踏まえた方法で発言しやすい環境ができていたように思う。		
○		
【その理由】 1.児童にとって家族の次に友達に認められることは自己肯定感を高めることにもつながる。「吉川っこ人権の小窓」の取組により、児童の自他への気づきの感度を向上させ、他者を認めたり認められることで自尊感情を高めることができている。これからも工夫改善して続けていきたい。 2.参観や講演会を利用して人権教育について親子で取り組み、家庭内で人権について話し合い、考えるきっかけづくりとなり良かった。今後も教職員は研修で得た情報なども活用し、いじめ、ジェンダー、LGBT等の今日的な社会課題にも子ども達が参画、理解が進むよう取組んでいきたい。 3.教職員の研修会・講演会への参加率がどの程度だったのかはわかりませんが、人権感覚は、磨かなければ鈍ります。積極的に研修の機会を探して研鑽を積む教職員集団であってほしいと思います。 ※教職員の研修会等の参加率は100%でした。今後は取組状況に加筆します。		

生活指導	○個々の教職員が見取った児童の課題を共有し、多面的に対応策を工夫する。	児童	○困ったことや悩み事があれば、家族や先生に相談できたか。 ⇒ いじめアンケート等へ自分の思いを書けたか。(学期に1回以上) →6月、10月、2月に実施 「分からないときや困ったときに先生や友達に聞ける。」低学年89.9% 高学年88%	A	A	・学期に1回の生活アンケートに加え、児童一人ひとりと教育相談を行い、丁寧な聞き取りをして迅速に対応することができた。また、聞き取った内容を加筆し、全職員に回覧して共通理解を図ることができた。 ・全職員での生活指導委員会や打ち合わせ等、機会ごとに児童の訴えや問題行動等の対応などの共通理解を行い、組織で対応することを心掛けた。しかし、下校直前の出来事やアフタースクールでのトラブルについて聞き取りが翌日になり、児童の記憶が曖昧になってしまう事があったため、必要に応じてバスに乗車せず迅速に聞き取りを行うなどの対応をとっていく必要がある。 ・あいさつ面に関しては、低学年89.9%、高学年80.5%、保護者の見立て77.8%と少し低めの評価となっている。これからもあいさつの指導を行っていく必要がある。
		教職員	○子どもの様子について、自から積極的に相談したり情報交換を行ったりしたか。 ⇒ 組織内の共通理解を迅速かつタイムリーに行う。 →1人で抱え込まず連携した。 100%	A		
		家庭や地域との連携	○日頃の生活の気づきを、家庭と学校とで共有できたか。 ⇒ 必要に応じて連絡帳・電話・家庭訪問等を迅速に行う。 →学校の様子を共有できた。(保護者)95.1%	A		
安全防災教育	○災害から自らの命を守るための保護者、地域住民と連携した防災訓練の実施	児童	○災害や日常生活にひそむ危険から、自分の身を守る方法を知っているか。 ⇒ 防災・安全に関するアンケート(3学期実施)の正答率80%以上の児童が全校生の8割以上を達成する。 →低学年97% 高学年94.6%	A	A	・11月実施の不審者訓練では、児童が放送を聞いて冷静に判断できるよう、各学級で指導を行った。また、職員研修では、学校安全指導員からさまざまな使い方を教わり、不審者対応の実技訓練を行った。 ・1月実施の訓練では、児童に知らせず休み時間に地震・火災訓練を行った。また、児童の緊張感を高めるため、実際に火災警報器を鳴らして訓練を行った。各学級で事前指導を行い、自分の身を守る方法を学ぶなど阪神淡路大震災を中心に取上げながら、日々の備えについて考えさせた。 ・1.17防災訓練では、消防署・まちづくり協議会の方の力をお借りし、学校・地域・保護者と体験活動を行い、防災について考える機会をもつことができた。来年度も地域や保護者と共に防災について考えていけるよう、この取り組みを充実させて継続していく。
		教職員	○「明日に生きる」や道徳教材等を使って、自他の命を大切にしている指導を継続できたか。 ⇒ 年度内における指導を各学年で2回以上は行う。	A		
		家庭や地域との連携	○防災について家族や地域で考える機会があったか。 ⇒ 保護者の肯定的回答50%以上を達成する。 →53.5%	B		
食育・健康教育	○子どもが、自分の健康や体力向上について意識したことを行動に移せる力の育成	児童	○給食のルールを守り、感謝の気持ちをもって食べたか。 ⇒ 給食のルールを守り、残さず食べたか。90%以上 ○体育や休み時間にのびのびと体を動かして、健康・体力づくりに努めたか。 ⇒ 児童アンケートで70%以上	A	A	・給食に関して、高学年は96.7%という結果で、ほとんどの人が残さずに給食を食べることができている。低学年は、87.8%という結果で、クラスに数人程度残してしまう児童がいる。一人分の量を考えて配膳したり、作ってくださる人への感謝の気持ちを大切に指導を継続していく。 ・吉川小体力アッププロジェクトとして、月に一回の全校的なわチャレ、体育授業の準備運動でのリズムジャンプやなわとび、体育委員主催のスポチャレなど、意図的に体を動かす機会を設け、健康・体力づくりに努めた。来年度も継続して取り組んでいく。 ・休み時間に外へ出て遊ぶ児童が固定化しているため、全校生を巻き込んだ取り組みだけでなく、みんなあそびや教師からの声掛けなど、クラス単位での取り組みも増やしていく。
		教職員	○体力アッププロジェクトや健康観察や給食時等の時間を利用して、健康・体力づくりに意識をさせる指導をしたか。 ⇒ 一日一回以上、健康・体力づくりに意識した指導ができたか。教職員アンケート90%以上	A		
		家庭や地域との連携	○子どもの健康・体力づくりの取組に理解が得られたか。 ⇒ 登校日は、すぐるによる健康チェックを毎日行う。すぐる返信率90%以上 ⇒ 子どもは給食や学校生活を楽しみにしていますか。保護者アンケートで80%以上	A		
教職員の資質向上	○研究テーマ実現に向けた授業実践、そのための研修計画の作成・実践 ○ふるさと教育の充実に向けた地域との連携の在り方の構築、吉川小独自の教育課程の創造	児童	○児童は学校生活が楽しいと思っているか。 ⇒ 児童アンケートで90%以上を達成する。 → 約90 % ○児童は授業が分かりやすいと思っているか。 ⇒ 児童アンケートで80%以上を達成する。 → 約80 %	A	A	・子どもたちが主体的に学習に取り組めるよう、授業の導入を工夫したり、自主学習ノートの取組を継続したりしたことが、児童アンケートの高い数値となって表れている。今後も継続していく。 ・「未来を創る学力育成三木モデル」の取組を中心に学校内外での研修の機会が増え、「教える」から「学ぶ」授業づくりへの転換を図るきっかけを得ることができた。今後具体について情報共有し、主体的に学ぼうとする子どもの育成に努める。 ・JA青年部、吉川町農産物生産者共同体「ようしょう会」、ゴルフのまち推進課、吉川町まちづくり協議会等地域の諸団体との連携を図り、充実した体験活動、探究学習を進めることができた。さらに地域の教育材に目を向け、地域と連携を図りながらよりよい教育活動をつくっていく。
		教職員	○他の教科担任、担任の授業を積極的に参観し、授業力向上について学び合えたか。 ⇒ グループ研修以外に2つ以上の参観を行い、意見交流する。 ○センター主催の研修会等に積極的に参加することができたか。 ⇒ 担当である研修会以外に3回以上は参加する。	A		
		家庭や地域との連携	○キャリア教育の充実を図り、地域の産業や公共施設等に出向き、ふるさと吉川の取組に積極的に参画することができたか。 ⇒ 地域のゲストティーチャーを招いての学習計画を年間1本以上行う。 → 全学年達成	A		
家庭・地域との連携	【HP等】 ○プライバシー保護に留意した、子どもの様子や作品等の学校通信・HPへの掲載 【保護者】 ○オープンスクールやPTA活動に参加しやすい環境づくり 【地域】 ○オープンスクールや体育的行事等への参加呼びかけ	HP等	○HPの随時更新、充実を図ることができたか。 ⇒ 概ね、週に数回HPの更新を達成する。 → 週3回のペースで更新中	A	A	・日々の様子に加え、学校通信、保護者向けの「新たなスタートを迎えて」を定期的に発行し、ホームページにアップすることで、吉川小の様子を広く発信することができた。学校・家庭・地域が連携する姿を今後一層発信していきたい。 ・東吉川小学校との統合初年度ということもあり、保護者の関心も高く、感染症対策を講じながら、行事を実施した結果、高い参加率を達成することができた。PTAとも意見交流しながらさらに協働体制を確立できるよう取組を進めていく。 ・運動会については、感染症対策で保護者や地域の方々の参加が難しかった。しかしながら、まちづくり協議会と連携した地域防災訓練や、PTA学年活動の実施など昨年度十分取組めなかったことを今年度実施することができ、連携の幅が広がったと感じている。継続した取組
		教職員	○事前案内をできるだけ早い時期に配付し、オープンスクール等の出席率を高めることができたか。 ⇒ 保護者の出席率80%以上を達成する。 → 約97 %	A		
		家庭や地域との連携	○学校通信やHP等を通じて積極的に参加をよびかけるとともに、親子で活動できる種目をできるだけ多く取り入れ、PTAに地域の参加呼びかけにも協力して頂くことができたか。 ⇒ 地域の方の出席者20名以上を達成する。としていたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、門戸を広げる事ができなかった。	B		

○			【その理由】 1.問題が深刻化する前に、聞き取り内容を全職員で共通理解促進。見えた訴え、問題行動等の対応を全職員が関わる「生活指導委員会」の場を通じ共有化し早期対応が来ている事を評価します。 2.下校直前、アフタースクールで発生した問題への対応は、早期に具体的な対応策を立て取組んで頂きたい。(パッドニュース ファーストの視点で) 3.挨拶に関しては、一部の児童と毎日接しているが物足りなさを感じている。家庭での習慣はもちろん、教職員にも積極的に挨拶をする姿を子どもたちに見せてもらいたい。また、指導方法等強化し、これからもいろんな機会、場面を通じ習慣化となるよう地道に、根気よく取り組んで頂きたい。
○			【その理由】 1.火災・地震等は、予期せず発生。予告無しで火災報知器を鳴らした訓練は、非常に大事。今後も児童の安全を担保するためにも関係者の協力を得ながら続けて頂きたい。但し、火災警報が「どの様な時に鳴るのか、どう行動するのか」等の事前学習の実施を。 2.今、職員で行っている点検を一定期間毎に担当を替え行う。また、一定期間毎に外部専門家の目を入れ点検。更に教職員、児童、保護者等が気付いた「ヒヤリ、ハツト」などを点検項目に加える等し、多面的な点検で施設の安全・安心作りに取組んで頂ければと思います。 3.バス通学に関して、豊岡の小学校でも置き去りが発生していることを教訓に指導の機会を設けていることを保護者や地域に公表していただくと安心です。 4.1月17日の防災訓練は学校、地域、保護者一体の訓練で良い取組だった。防災訓練は継続が大切で次年度も発展させて取り組んでほしい。ただ今回は保護者の参加数が少なく残念だった。積極的に参加を募り、保護者の参加を増やすことで家庭でも防災について考える機会を作ることができるのではないかと。
○			【その理由】 1.バス通学になった児童も多く体力的な面で心配もあったが、コロナ禍続く中、吉川小体力アップP、リズムジャンプ縄跳び、スポチャレなど様々な策を講じ児童の健康・体力づくりなどに取組み、体力向上に努められていることは評価できる。 2.今後は、コロナ禍の対応も緩和されるので、色々な機会・場面を活用し、より一層児童の体力アップに向けた取組を充実させて頂きたい。家庭でも、体力アップに向けて、外遊びの充実が図れるように協力したい。 3.コロナ感染に気を付けて、黙食から徐々に会話もできる楽しい給食の時間にして頂きたいと思う。児童が互いに刺激を受け、食量が増え、苦手な物も頑張って食べようとするようになることを期待する。 4.小中一貫教育を視野に入れ、体育会を吉川中学校を会場に行う新しい取組をされた意義は大きいと思う。
○			【その理由】 1.教師は、先駆的な「三木モデル」授業の実践具現化に向け、内外で開催される多くの研修に参加する機会が増えているとのこと。全国的に精神疾患を患った教師の人数が高止まり状態となっている中、これらの研修で教師の業務が過大とならないよう、健全な心身のもとで意欲をもって新しい授業スタイル作りを取組めるよう環境整備をお願いしたい。 2.ICTを効果的に活用した「吉川小モデル」の実践スタイル作りと定着に向け、研修で得た知識を自らの授業に積極的に取入れ実践。こうした授業に他の教師も積極的に参加、相互研修の場として活用し、新たな授業スタイル確立に向け取組んで頂きたい。 3.ふるさと教育の取組は、コロナ禍の中でも感染対策を講じながら諸団体の協力の下で取組めたことは評価です。今後も関与者、関係団体との連携・協力のもと「よかわの良さ」を発見し、故郷よかわの「良さ」を児童に体感、伝わる操作りに取組んで頂きたい。
○			【その理由】 1.学校通信、すぐる、HP等を通して積極的に学校活動、考えなどを発信され、学校の様子が良く分かる。さらに、各学年の学習活動等のトピックスをコメント付きの写真を使いHPに掲載して頂ければ、子どもの学校生活が更に分かりやすくなると思う。 2.コロナ禍の収束が見通せない中、その時々感染状況に応じた対策を講じ、関係団体との活動が出来たことは評価できる。来年度は、コロナ対応に一定の緩和の方向性が見えてきたので、工夫しながら地域との活動の範囲を徐々に広げて頂きたい。 3.ホームページは関心のある人は良く見るが、見ない人も多く、大きな学校行事等は小・中学校を問わず「吉川町公民館たより」にも掲載してもらい幅広く周知してほしい。 4.オープンスクールやPTA行事などの保護者の参加率が高く学校への関心がうかがえる。今後も保護者が関心を持って協力したくなるような学校づくりをしてほしい。